

倫理 研究課題 <青年期06>

教科書：p ～ 資料集：p ～ ノートp ～

- E・フロム (20c・ユダヤ人・ドイツ～アメリカ) ←フロイトの影響を受けている
ファシズム (ナチズム) の社会的背景を社会心理学的に研究 (主著『自由からの逃走』)

ファシズム (全体主義) = 1930年代の日独伊 (軍国主義の日本、ナチス党が支配したドイツ (ナチスドイツ)、ファシスト党が支配したイタリア) に典型的に見られた政治形態。国家の利益のために国民や少数者の人権が否定された (例：ナチスによるユダヤ人虐殺)。ソ連や北朝鮮の社会 = ファシズムとする見方もある。

- ※権威主義的パーソナリティ ←→ ※民主主義的パーソナリティ
- 強者に従順で、弱者に攻撃的 (垂直的人間関係) 強者に批判的で弱者に協力的 (水平的人間関係)
- = あらゆる人間や集団の関係を「上下関係」で理解し、
自分より強いが弱い方を基準に行動する。他者と対等な関係をもてない。
(例) 相手の弱みを見つけると直ちに攻撃し、自分を優位に保とうとする
= 「トラの威を借りるキツネ」 = 『ドラえもん』の「スネ夫」
= サディズム・マゾヒズム的な性格類型
(背景) 未熟な自我 = 自信のなさ = 自由が重荷で不安
∴ 自由から逃走する = $\left\{ \begin{array}{l} \text{強い指導者に依存することで自己を守る} \\ \text{弱者に冷淡になることで自己を守る (スケープゴート)} \end{array} \right.$
(∴ 自由 = “～からの自由”。消極的な意味しかもたず容易に放棄可能)
(対策) 自我の成熟 (= 民主主義的パーソナリティへの成長)。社会の中で一定の責任を担い、「愛と仕事」にいそしみ、健全な民主社会を建設する生き方をすること (自由 = “～への自由”。積極的意味をもつ大切な価値になる)

★現代日本社会において「権威主義的パーソナリティ」はどこに見いだせるか？

.....
.....
.....

権威主義的人間 と 民主主義的人間 の比較

		権威主義的人間	民主主義的人間
ラズウエルの分析	同一化の体系 (他者との関係)	閉鎖的自我 ○あらゆる対人関係において搾取的・操作的・日和見的に振る舞う権力志向型人間。 ○人間関係において階層的な考え方をもち、人々を平等な存在とは見ない。	解放的自我 ○常に打ち解けた暖かい抱擁的な態度で他者と接することができる。 ○人を隔てる文化的範疇を超越し、階級・カーストを超えて人間性を感じることができる。
	要求の体系 (価値観)	一元的価値 ○自分を道徳的に高尚な統制のとれた人物と考え、自己の準拠規範から外れる他者の意見や行動を認容しない。	多元的価値 ○様々な価値に共感でき、またそれを心から望む多元的要求体系の持ち主。
	期待の体系 (未来への態度)	不信と猜疑 ○他を責めて自己を反省しない外罰型の人間。	善意への信頼 ○人々の潜在的な善意への深い確信に特徴づけられる。
	無意識部分	不安 ○情緒的潜在的不安の処理に多くのエネルギーを必要とする。	不安からの解放 ○不安や敵意衝動を抑制することにエネルギーを消費しなくてすむので、政治参加や親交をしやすい。
フロムの分析	概括・特徴	ファシズムや全体主義的権力支配に適応しやすい性格 ○「消極的自由」は獲得したものの、「積極的自由」から逃避している。 ○自己同一性を放棄して他者に依存する。「強者への服従」(マゾヒズム的傾向)と「弱者への支配・攻撃」(サディズム的傾向)をもつ。 ○世界を強者と弱者あるいは優者と劣者から成り立っていると見る。 ○自分の背後に権威や権力がなければ積極的な行動や自主的な判断ができない。 ○権威者を賛美し、彼への服従を義務と考える。伝統的慣習を固守する因襲主義。 ○1930年代ドイツの低中間層に多く見られ、ナチスのファシズムを支えた。	民主主義体制の円滑な運営に必要な性格 ○「消極的自由」と「積極的自由」を獲得している。 ○「愛」と「仕事」において自己の能力を十分に自発的に発揮することによって、自分を他者や自然と積極的に結びつけることができる。 ○「理想」を追求できる。権威者に対して批判的な精神を持っている。

フロム:ドイツの精神分析学者。フロイトの精神分析を社会分析に応用した。
ラズウエル:アメリカの政治学者。フロイトの精神分析を政治分析に応用した。

参考文献 ○フロム『自由からの逃走』東京創元社,1949
○曾良中清司『権威主義的人間』有斐閣,1983